

# 伝統文化の源流に触れる

2023年3月26日(日)

□12時30分開場 □13時00分開演 □15時50分終了予定 会場：国立文楽座劇場・小ホール

## <第1部> 二胡とクラシックギターのデュオ演奏

二胡の「胡」中国では「北方の異民族」または「西方の異民族」を指す言葉です。「二胡」は中国発祥の楽器ではなく、シルクロードを通して伝来した楽器であろうというのが現在有力な説です。中国史では比較的新しく11世紀後半に登場します。シルクロード発祥の二胡と西洋音楽のクラシックギターのデュオ演奏をお楽しみください。



ひろこ  
吉川普子氏

京都市生まれ。幼少期よりピアノ吹奏楽等に親しむ。高校在学中より二胡を蘇曹娘女史に師事。(北京中央音楽学院卒、中央民族音楽集団出身)京都府立大学文学部卒業後、二胡の演奏活動と普及活動を開始。2004年、京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了(民族音楽学専攻 中国の少数民族の弓奏楽器等を研究)。現在は、京都を拠点に二胡の演奏活動と指導、旧奏法(胡琴)の研究を続けている。2021年、森恵里子氏(作曲 ピアノ)福井則之氏(馬頭琴)とCD「星と風のうた」をリリース。



しんいち  
岩崎慎一氏

ギターを松山寛樹、木村英明、藤井敬吾の各氏に師事。1993年スペインへ渡り、ホセ・ルイス・ゴンサレス氏に師事。また、井上幸治、フェルナンド・ロドリゲス、アレックス・ガロベアの両氏にも学ぶ。福田一、D.ラッセル、M.バビロニ、A.ディアス、J.アリサ、R.アウセル、P.ロメロ、E.フェイス、他各氏のマスタークラス受講。ソロ活動の他、パレンシア交響楽団ヴァイオリン奏者トリアン・イオネスク氏と共にデュオ・アルペジオーネルを結成するなど、スペイン各地においてコンサート、録音等を行う。第23回クラシックギターコンクール(東京)、ホセ・ルイス・ゴンサレス国際ギターコンクール(アルコイ)優勝。その他、第43回マリア・カナルス国際ギターコンクール(バレソナ)、アンドレス・セゴビア国際ギターコンクール(リナレス)、ペレス・マラカ国際ギターコンクール(マラガ)、等のコンクールに入賞。現在関西を拠点にコンサートのほか、マスタークラス、ワークショップ等の教授活動にも力を入れている。

## <第2部> 京焼(清水焼)作家 六代祥瑞五郎助



嘉永初年(一八四七年)頃、陶芸の里として名高い京都清水の五条坂にて、浅見家の初代五郎助が登窯を築き、装飾品や茶器類、食器類の焼物を創り祥瑞五郎助と号した。富岡鉄齋先生は当家の作品を大層愛され、殊の外親しく交友、又その揮毫をいただき作品等も保存されている。又、北大路魯山人や太田垣蓮月氏とも深く親交していた。創業以来各代に亘って伝統陶芸の興隆発展に努力。一九四三年には国より三鳥手の技法の技術保存作家の指定を受け五郎助風の作陶は益々高く評価され、特に洗練された味わいをさりげない素朴さで表現した三鳥手・刷毛目技手を最も得意としている。又、祥瑞手染付・仁清風色絵・乾山風鉄錫絵など祥瑞五郎助の風合いは、現代人の嗜好に迎えられ数奇者を始め多くの人々に中広く愛好されている。現当主は、昭和二十六年 五代 五郎助の長男として生まれ、昭和四十七年より先代五郎助に師事し、指導を受け、陶芸の道に進む。又、京都市工業試験場に於て窯業研修を修了し、中広く陶芸の研鑽を積む。その後陶芸研究の為渡米、昭和五十七年以後、京展及び各展覧会に伝統的な技法を基盤とした現代的な作品を造り入選する。昭和六十二年六代浅見五郎助を襲名し祥瑞五郎助を継承、当家の誇る独特の遺業を継ぎ、専心伝統 陶芸の道に励んでいる。毎年、東京・大阪・京都等各地に於て陶芸展を開き鋭意創作に努めている。現在「京都伝統陶芸家協会」会員である。

### 現地案内図



●会場：国立文楽劇場小ホール(大阪市中央区日本橋1-12-10)  
最寄駅：地下鉄堺筋・千日前線「日本橋」駅下車  
7番出口より徒歩1分

●参加無料  
事前にハガキ又はメールにて住所/氏名/電話番号をご記入の上、下記までお申込みください。

●主催/連絡先：一般社団法人老人文化会議(大阪市西区江之子島1-7-3)  
TEL:075-205-0012 E-mail:info@eldernets.or.jp

お送りいただいた個人情報はこのイベント及び、当法人が今後開催するイベントの際のみ使用させていただきます